

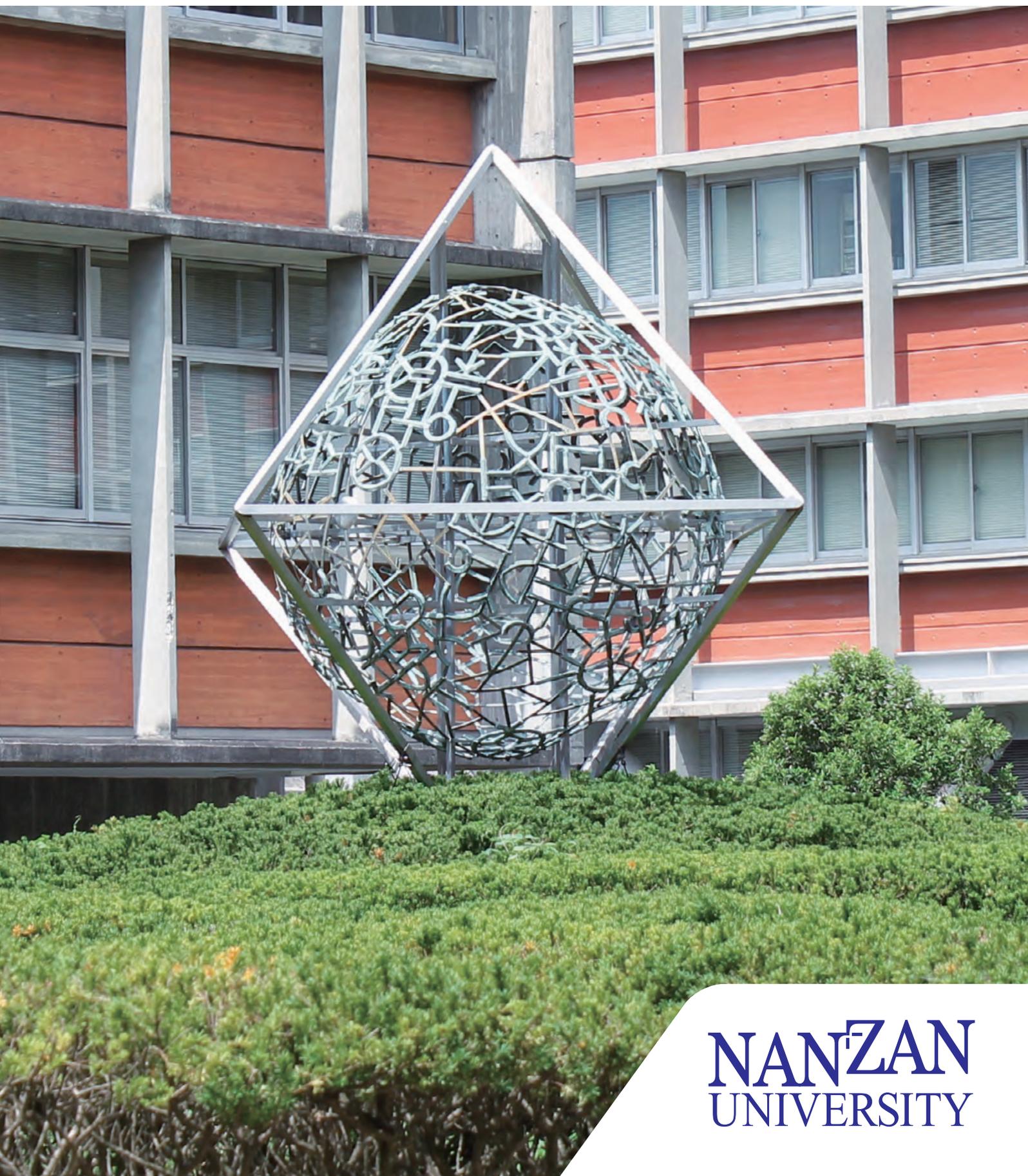
南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol. 194
2015. 9. 30

特集
国際教養学部
(仮称・設置構想中)
2017年4月開設予定



NANZAN
UNIVERSITY

国際教養学部 国際教養学科 (仮称・設置構想中) 2017年4月開設予定 [設置構想中]

国際社会の諸問題を地球規模の視点から解決する
国際教養学を備えた人材を育成します。

文系・理系を併せ持つカトリック系総合大学として「キリスト教世界観に基づく学校教育」を建学の理念とする本学では、「人間の尊厳のために (Hominis Dignitati)」を教育モットーに、他者と自己の尊厳を尊重し合える心を育む教育を実践しています。

2017年開設予定の国際教養学部(仮称・設置構想中)では、文化の垣根や境界を乗り越えて、異なるイデオロギーや価値観を尊重し、持続可能な社会(Sustainable Society)を実現するために積極的に行動できる人材を育成すべく、設置準備を進めています。

本学が設置を予定している 国際教養学部(仮称・設置構想中)

国際化する現代社会には課題が山積しています。例えば、世界各地で起きている民族問題。その国や地域の歴史・文化を理解するだけでなく、世界的な視点からの分析が不可欠で、地球規模の教育・研究が急務となっているのです。

本学では、文化間の摩擦により生じるさまざまな問題を理解・分析しながら、その解決に向け他者と協働しつつ積極的に行動できる人材を育成します。

学びの特徴

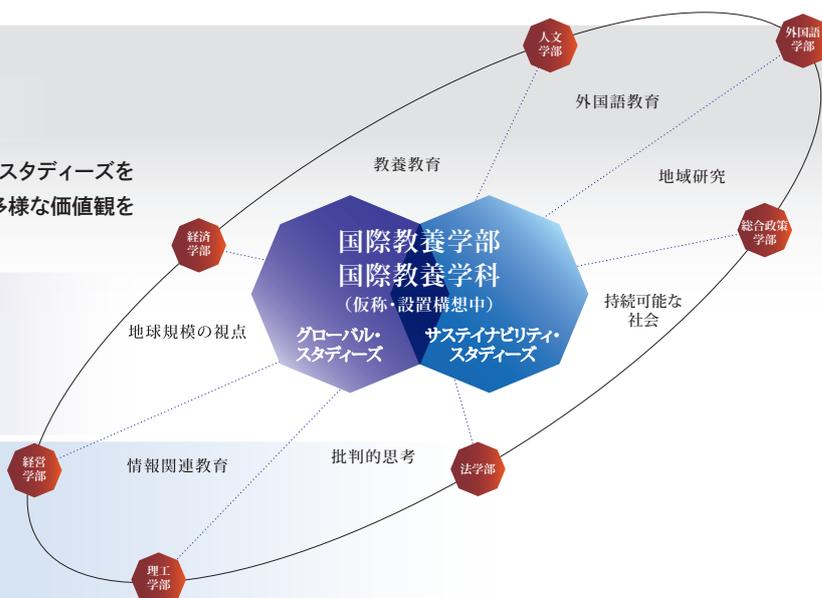
グローバル・スタディーズとサステナビリティ・スタディーズを二つの柱に学修を構成し、国や地域の枠を超え、多様な価値観を重んじる国際教養学教育を実施します。

グローバル・スタディーズ

グローバル化が進む現代社会を、国際関係、メディアの役割などの観点から理解。その変化を分析します。

サステナビリティ・スタディーズ

歴史、宗教、教育などから、貧困、経済格差、環境問題、民族紛争など様々な課題を把握。持続可能な社会を目指します。



地球規模の課題を解決するグローバルリーダーに求められる4つの力

1. 外国語能力

日本語、英語に加え、異なる価値観を理解するため第3の言語を習得し、トライリンガルを目指します。CEFR^{※1}を基準とした目標到達レベルは、英語はC1^{※2}、第3の言語はB2^{※3}を目標とします。

2. 教養力

異なる文化背景をもつ他者と相互に理解し合い、急速に進むグローバル化に対応するために、国、地域の枠を超え、多面的価値を重視した教養を養います。

3. 探求力

主専攻・副専攻制度を導入予定。自らの関心に応じて主専攻を学びながら、各人が選択した外国語が使用されている地域の文化を副専攻として研究します。

4. 実践力

課題解決型学習(Project-Based Learning)に基づく演習や国際インターンシップ、海外ゼミを実施予定。理論はもとより、実践に基づいた学修で実践力を養います。

※1 ヨーロッパ言語共通参照枠。欧州評議会が提案する複言語主義に基づくガイドライン

※2 公的な会議に参加できるレベル

※3 母語話者と複雑な会話が可能なレベル

国際教養学部(仮称・設置構想中)は2017年4月の開設に向けて設置準備を進めています。

学部・学科の概要等は予定であり、今後、変更になる場合があります。

※本紙掲載内容は、2015年9月1日現在の予定です。

2017年度 クォーター制 導入

南山大学では、総合政策学部が2017年度に名古屋キャンパスに移転してキャンパス統合が完成し、そのキープフレーズである「One Campus Many Skills」を実現する体制が整うことを好機として、クォーター制(いわゆる“4 学期制”)を導入します。

このことによって、2017年度から、学部(短期大学部を除く)・大学院(専門職大学院を除く)の授業は、定期試験を含む8週間を1クォーターとする4学期制のもとで行うこととなります。クォーター制を導入する主な目的は、以下のとおりです。

- ◎ 1年を4回にわけて授業を履修することができ、履修計画の柔軟な組み立てが可能になります。
- ◎ 6月からスタートされるサマーコースへの参加等の短期留学や、サービス・ラーニングなど自主的な学修の選択肢が広がります。
- ◎ 短期間で集中的に学ぶことにより学修効果の向上が期待できます。
- ◎ 海外からの留学生受け入れの促進が期待できます。

年度により日程に多少の差は生じますが、各クォーターの授業期間はおよそ以下のようになります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
クォーター制の場合 (2017年4月から)	第1クォーター		第2クォーター		夏期休暇	第3クォーター		第4クォーター		春期休暇		
セメスター制の場合 (2017年3月まで)	春学期				夏期休暇		秋学期				春期休暇	

なお、各クォーターにおいて、授業期間を7週、定期試験期間を1週とするために、授業時間を100分に変更し、各授業を原則として毎週2回、1クォーターで14回開講します。2017年度の具体的な授業日予定については、細部の検討を経て後日発表します。

2015年2月より、夏期休暇・春期休暇を利用した全学部生対象の短期留学プログラムを実施しています。また、更なる国際化を図るために、2017年度に向けて学部の特徴を生かした短期留学プログラムを全学部で展開する準備を進めています。更に、クォーター制導入後には特定の年次(2年次、あるいは3年次)の第2クォーターに必修科目を設けないカリキュラムにすることを検討しています。このことにより、これまで以上に短期留学がしやすい環境となることが期待されます。各自の語学レベル、学習計画、将来設計に応じた留学プログラムに積極的に挑戦してみてください。

Program

現在、全学部生向けに提供している短期留学プログラムは以下のとおりです。

春期プログラム

(2015年2~3月実施・2016年2~3月実施予定)

[研修先国(地域)/大学名/研修コース]
 ニュージーランド(オークランド)/The University
 of Auckland (English Language Academy)/
 “Global English Plus Integrated for Groups”

夏期プログラム

(2015年8月実施)

[研修先国(地域)/大学名/研修コース]
 アメリカ(ハワイ)/University of Hawaii at Manoa
 (Outreach College)/
 “NICE Program (New Intensive Course in English)”

プログラムごとにカリキュラムの特色は異なりますが、いずれも充実した英語授業と多様な文化体験が組み込まれており、グローバルな視野を培うことが可能です。語学力に自信のない方から、将来的に長期留学を考えている方まで、各自のレベルに合わせて力を伸ばす足掛かりとして活用してください。



クォーター制導入の趣旨についてご理解いただくとともに、学生の皆さんが明確な目的意識を持って新たな制度の利点を十分に活用していけることを期待します。

2014年度決算・2015年度予算について

2014年度は、次期将来構想(2013年9月に発表)の実現に向けての第1歩である「キャンパス統合事業」の第1期工事が完了しました。また、「南山大学国際化推進」「情報センター、国際センターの設置」の事業を進めました。

2017年4月のキャンパス統合に向けた第1期工事は、2015年2月に新棟(S棟)が完成し、理工学部の研究室・事務室等が瀬戸キャンパスから移転、4月から名古屋キャンパスで授業を開始しました。また、第2期工事の基本設計を2014年7月から開始しました。国際化推進のための具体的取組としては、多様な留学生との日常的交流を通じ、すべての学生がキャンパスにい

ながらにして国際感覚を身につけられるような環境整備を進めるとともに、海外留学プログラムの選択肢を拡げ、全学部・研究科の学生たちの現地での学びを推進します。情報センターは2016年度の開設に先立ち2015年1月に事務組織が再編され、S棟の完成に伴い新しい事務室に移転しました。国際センター設置については、国際センター設置準備事業としてスタートし、ハード(組織・場所等)とソフト(留学プログラムの充実や教員の交流等)の両面から具体案作りを進めています。

本学では、「NANZAN BULLETIN」「南山大学概要」「南山大学公式Webページ」において財政状況を公開し、透明性確保に努めています。今回は、2014年度決算および2015年度予算について、財務諸表をもとに説明させていただきます。

2014年度決算について

第1表は、資金収支計算書であり、本学における1年間の活動に伴う収入と支出の資金の記録です。収入の部の前年度繰越支払資金(33,293百万円)と、支出の部の次年度繰越支払資金(34,353百万円)の差額は1,060百万円であり、これが2014年度の諸活動による資金の増加額です。

収入の部では、学生生徒等納付金収入が35百万円増加しています。内訳では、授業料と施設設備費の合計が52百万円増加し、実験実習料が16百万円減少しています。実験実習料のうち短期留学プログラムが11百万円減少となっており、当初予定していた参加者数に達しなかったことが理由です。補助金収入は、予算額1,068百万円に対して13百万円(1.2%)の減少に留まりました。ただし、内訳は経常費補助金が27百万円減少、施設設備補助金が15百万円増加となっており、経常費補助金確保のための積極的な対策が今後の課題です。資産運用収入、雑収入が予算額に対して決算額が増加となりました。資産運用収入は経済情勢の回復傾向による有価証券等の運用収入増加により決算額が増加しました。

一方、支出面では人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出ともに予算額内で執行しました。特別な収支としては第1期工事の建物建設費用があり、借入金収入20億円と第2号基本(その他の収入)からの30億円、施設関係支出49億円を賄っています。

なお、例年南山学園の設立母体である神言修道会から、本学に勤務する神言修道会会員の人件費節約額として本学への財政支援がなされています。2014年度は総額19百万円の援助があり、パハ研究奨励金等の原資として充当しました。

第1表の資金収支計算書が、本学の資金にかかる収入および支出の顛末を表しているのに対し、第2表の消費収支計算書では、本学の経営状態が健全かどうかを示すための収支状況を表しています。帰属収入(負債とはならない収入13,218百万円)から基本金組入額(設備投資等に充当される額903百万円)を控除した額を消費収入と呼び(12,315百万円)、この消費収入と、自己資金の減少をもたらす消費支出(12,132百万円)との差額183百万円が、当年度消費収入超過額となりました。前年度繰越消費収入超過額3,761百万円と合せて、翌年度繰越消費収入超過額は3,944百万円となりました。

第3表の貸借対照表は、2015年3月31日現在

支出の部			収入の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
人件費支出(教員人件費)(職員人件費)(退職金)	6,758,234(4,816,632)(1,623,564)(318,038)	6,663,385(4,764,094)(1,567,394)(331,897)	学生生徒等納付金収入(授業料)(入学金)(実験実習料)(教育実習料)(施設設備費)	10,473,033(7,152,080)(1,250,410)(1,181,137)	10,508,399(7,194,405)(1,250,410)(1,015,94)
教育研究経費支出	2,893,392	2,742,059	手数料収入(入学検定料)(その他の手数料)	801,504(678,618)(122,886)	767,213(656,534)(110,679)
管理経費支出	942,389	907,939	寄付金収入	211,334	218,980
借入金等利息支出	53,638	53,636	補助金収入	1,068,121	1,055,498
借入金等返済支出	193,310	193,310	資産運用収入	142,323	172,133
施設関係支出	4,938,398	4,900,512	資産売却収入	30	28
設備関係支出	601,949	590,243	事業収入	209,409	204,134
資産運用支出	700,000	708,707	雑収入	259,681	278,982
その他の支出	2,365,362	2,340,928	借入金収入	2,000,000	2,000,000
法人本部費配賦額	599,338	599,305	前受金収入	2,461,709	2,490,896
資金支出調整勘定	△ 265,361	△ 406,647	その他の収入	5,455,856	5,471,078
次年度繰越支払資金	33,800,374	34,353,440	資金収入調整勘定	△ 2,795,200	△ 2,813,747
			前年度繰越支払資金	33,293,223	33,293,223

支出の部合計	53,581,023	53,646,817	収入の部合計	53,581,023	53,646,817
--------	------------	------------	--------	------------	------------

(注) 予算額は補正予算額

消費支出の部			消費収入の部		
科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
人件費	6,749,714	6,665,516	学生生徒等納付金	10,473,033	10,508,399
教育研究経費	3,858,394	3,701,203	手数料	801,504	767,213
(内、減価償却額)	(965,000)	(959,369)	寄付金	212,334	222,397
管理経費	1,060,489	1,023,235	補助金	1,068,121	1,055,498
(内、減価償却額)	(118,100)	(115,270)	資産運用収入	142,323	172,133
借入金等利息	53,638	53,636	資産売却差額	1	1
資産処分差額	99,464	97,481	事業収入	209,409	204,134
徴収不能引当金繰入額	9,790	9,789	雑収入	262,121	288,335
法人本部費配賦額	581,300	581,267	帰属収入合計	13,168,846	13,218,110
			基本金組入額合計	△ 1,039,282	△ 903,280
消費支出の部合計	12,412,789	12,132,127	消費収入の部合計	12,129,564	12,314,830

(注) 予算額は補正予算額

科目	予算額	決算額
当年度消費収入(△支出)超過額	△ 283,225	182,703
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	3,761,757	3,761,757
基本金取崩額	0	0
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	3,478,532	3,944,460

(注) 予算額は補正予算額

科目	2014年度末	2013年度末	増減	科目	2014年度末	2013年度末	増減
資産の部				負債の部			
固定資産	34,952,542	32,996,015	1,956,527	固定負債	7,250,553	5,471,785	1,778,768
有形固定資産	32,127,689	27,859,612	4,268,077	長期借入金	4,532,990	2,726,300	1,806,690
土地	4,140,595	3,581,485	559,110	退職給与引当金	2,266,856	2,264,725	2,131
建物	20,413,541	14,965,444	5,448,097	長期預り金	242,623	237,623	5,000
構築物	698,290	468,740	229,550	長期未払金	208,084	243,137	△ 35,053
教育研究用機器備品	606,416	336,235	270,181	流動負債	3,522,391	3,376,181	146,210
その他の機器備品	7,961	9,876	△ 1,915	短期借入金	193,310	193,310	0
図書	6,180,126	6,182,931	△ 2,805	未払金	384,865	239,185	145,680
車両	1	1	0	前受金	2,490,896	2,493,951	△ 3,055
建設仮勘定	80,759	2,314,900	△ 2,234,141	預り金	453,320	449,735	3,585
その他の固定資産	2,824,853	5,136,403	△ 2,311,550	負債の部合計	10,772,944	8,847,966	1,924,978
電話加入権	6,301	6,301	0	基本金の部			
施設利用権	4,539	2,371	2,168	第1号基本金	45,714,838	42,457,012	3,257,826
長期貸付金	167,609	204,331	△ 36,722	第2号基本金	2,227,089	4,582,670	△ 2,355,581
差入保証金	0	0	0	第3号基本金	6,187,238	6,186,203	1,035
ソフトウェア	164,988	150,730	14,258	第4号基本金	844,400	844,400	0
ソフトウェア勘定	55,620	0	55,620	基本金の部合計	54,973,565	54,070,285	903,280
退職給与引当特定資産	140,000	140,000	0	消費収支差額の部			
南山大学名古屋C施設設備拡充引当特定預金	50,000	50,000	0	翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	3,944,460	3,761,757	182,703
南山大学将来構想奨学金引当特定預金	8,707	0	8,707	消費収支差額の部合計	3,944,460	3,761,757	182,703
南山大学短期大学新施設設備整備費	2,227,089	4,582,670	△ 2,355,581				
流動資産	34,738,427	33,683,993	1,054,434				
現金預金	34,353,440	33,293,223	1,060,217				
未収入金	311,507	326,705	△ 15,198				
立替金	3,454	4,023	△ 569				
前払金	66,670	56,858	9,812				
貯蔵品	3,356	3,184	172				
資産の部合計	69,690,969	66,680,008	3,010,961				

における総資産、負債、自己資金(基本金+翌年度繰越消費収支差額)の状態を表わしています。資産の部では、第1期工事の建物建設に伴い、土地・建物・構築物などの固定資産は1,957百万円増加となりました。流動資産も1,054百万円増加となり、総資産(固定資産+流動資産)は3,011百万円増加となりました。他方、負債の部は建物建設のため2,000百万円借り入れたことにより1,925百万円増加、基本金の部は903百万円増加、翌年度繰越消費収入超過額は183百万円の増加、自己資金は1,086百万円の増加となりました。

2015年度予算について

本学における帰属収入の内訳は、2014年度決算では学生生徒等納付金79.5%、補助金8.0%となっており、学生生徒等納付金が帰属収入の大きな部分を占めています。この収入構造は2015年度予算においても同様ですが、今後も学生生徒等納付金増収のため学生数確保、および補助金・寄付金などの外部資金獲得のため更なる努力を続けていく所存です。一方、支出の部では人件費、教育研究経費、管理経費が主な項目ですが、教育研究経費比率が全国平均に比べて低いことが本学の課題となっています。理由は、教育研究経費を十分に活用していないこと、現存する建物の多くが1964年に山里町(現名古屋キャンパス)に移転した時の建物であるため減価償却額が低いことに起因しています。

2015年度は学長方針の最重要課題である「学部改組とキャンパス統合」「さらなる国際化の推進」「自主的学習を促す学習環境」を実現するための事業を実施します。

2015年度の主な事業計画は以下のとおりです。

1. 学部改組とキャンパス統合事業

2015年4月の理工学部移転に続き、2017年4月の総合政策学部移転に向けて名古屋キャンパスの整備が進んでいます。このキャンパス統合に合わせて、外国語学部改組、新学部・新学科の設置、さらに学科・コースの体制やカリキュラムの再検討など、具体的な検討を進めます。

2. さらなる国際化の推進事業

国際性強化のため、留学方法の拡充や手厚い留学支援体制の整備、国際科目群の質・量の充実、外国語を使用するインターンシップの推進、国内外のボランティア活動を通じた学習支援、国内外の大学・研究者との連携および協力体制の強化など、積極的に取り組みます。

3. 自主的学習を促す学習環境

今日の大学に求められている「学生の自主的学習を推進する学習環境」の整備に取り組みます。例えば、反転授業などアクティブラーニングの導入、自主的な共同学習の場としてのラーニング・コモンズの設置、学生に自己の学びを俯瞰させる学習ポートフォリオの導入など、具体的な検討を進めてまいります。

なお、2015年4月1日から学校法人会計基準が改正されたため予算書の名称および様式が変更されていること、2015年度予算は3月に決定されている関係で、前年度繰越収支差額および前年度繰越支払資金が2014年度決算からの繰越額と一致していないことを申し添させていただきます。

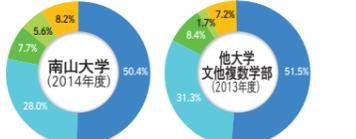
本学では、私立大学としての公共性と説明責任を認識し、従来から財務改善に努めるとともに、財務状況を広く公表しており、引き続きこの方針を維持していく所存です。今後ともご理解、ご支援をお願いいたします。(大学事務部長 沢口定雄)

第4表 財務比率

比率	計算式	南山大学			他大学	
		2012年度	2013年度	2014年度	2013年度	2013年度
人件費比率	人件費/帰属収入	51.3%	53.0%	50.4%	51.5%	↓
人件費依存率	人件費/学生納入金	66.7%	67.2%	63.4%	63.9%	↓
教育研究経費比率	教育研究経費/帰属収入	25.4%	26.7%	28.0%	31.3%	↑
管理経費比率	管理経費/帰属収入	6.0%	7.4%	7.7%	8.4%	↓
借入金等利息比率	借入金等利息/帰属収入	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	↓
学生生徒等納付金比率	学生納入金/帰属収入	76.8%	78.9%	79.5%	80.5%	↑
補助金比率	補助金/帰属収入	8.0%	8.1%	8.0%	8.0%	↑
基本金組入率	基本金組入額/帰属収入	9.2%	6.3%	6.8%	9.9%	↑
減価償却費比率	減価償却額/消費支出	9.2%	9.1%	8.9%	11.5%	~

帰属収入に対する比率

比率	南山大学(2014年度)	他大学文他複数学部(2013年度)
人件費	50.4%	51.5%
教育研究経費	28.0%	31.3%
管理経費	7.7%	8.4%
その他の消費支出額	5.6%	1.7%
基本金組入額+消費収支差額	8.2%	7.2%



貸借対照表関連

比率	計算式	南山大学			他大学	
		2013年度	2014年度	2013年度	2013年度	2013年度
自己資金構成比率	自己資金/総資金	86.7%	84.5%	87.4%	↑	
消費収支差額構成比率	消費収支差額/総資金	5.6%	5.7%	△12.2%	↑	
流動比率(※)	流動資産/流動負債	816.8%	810.6%	245.9%	↑	
減価償却比率	減価償却累計額/減価償却資産取得価額	52.5%	45.6%	48.0%	~	
総負債比率	総負債/総資金	13.3%	15.5%	12.6%	↓	
負債比率	総負債/自己資金	15.3%	18.3%	14.4%	↓	

(注) 他大学の数値は、日本私立学校振興・共済事業団平成26年度版「今日の私学財政」より、消費収支関連については文他複数学部の大学部門の平均を、貸借対照表関連は文他複数学部を有する大学法人全体の平均をそれぞれ掲載した。評価は、それぞれの大学の特殊性があり一概には「↑」は数値が高い方がよく、「↓」は数値が低い方がよく、「~」はどちらともいえないとされている。自己資金=基本金+消費収支差額 / 総資金=負債+基本金+消費収支差額 / 総負債=固定負債+流動負債 (※) 南山大学の流動比率は流動資産から第3号基本金額を差し引いた額を分子とした。

第5表 2015年度 資金収支予算書 (2015年4月1日から2016年3月31日まで) (単位:千円)

支出の部			収入の部		
科目	予算額		科目	予算額	
人件費支出	6,694,472		学生生徒等納付金収入	10,201,778	
退職金支出	178,658		手数料収入	762,216	
教育研究経費支出	2,783,726		寄付金収入	186,046	
管理経費支出	850,132		補助金収入	1,059,113	
借入金等利息支出	73,965		資産売却収入	30	
借入金等返済支出	193,310		付随事業・収益事業収入	210,230	
施設関係支出	2,268,795		受取利息・配当金収入	75,232	
設備関係支出	388,722		雑収入	170,468	
資産運用支出	700,000		借入金等収入	0	
その他の支出	2,208,315		前受金収入	2,472,678	
予備費	25,332		その他の収入	4,413,413	
資金支出調整勘定	△ 267,689		資金収入調整勘定	△ 2,615,965	
法人本部費配賦額	511,998				
当期支出合計	16,431,078		当期収入合計	16,935,239	
翌年度繰越支払資金	34,304,535		前年度繰越支払資金	33,800,374	
支出の部合計	50,735,613		収入の部合計	50,735,613	

第6表 2015年度 事業活動収支予算書 (2015年4月1日から2016年3月31日まで) (単位:千円)

支出の部			収入の部		
科目	予算額		科目	予算額	
教育活動					

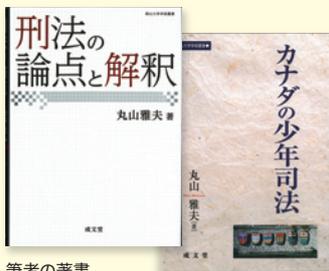
私の研究



丸山 雅夫 (まるやま まさお)
法務研究科 法務専攻 教授

専攻分野は、「刑法」、「少年法」。
研究テーマは、「刑法解釈論」、「少年法における理論と実務の架橋」。
主な担当科目は、「刑法II」、「刑法演習(法科大学院)」、「少年法」(法科大学院、法学部)。

ある『カナダの少年司法』(成文堂、2006年)を公刊した後は、日本の少年法に関する論稿を積極的に発表し、現在は、刑法解釈論と少年法研究が半々といった状況になっています。ただ、刑法の議論が比較的落ち着いているのに対し、少年法をめぐる昨今の状況は、実態を伴わない「厳罰化論」や根拠のない少年法適用年齢上限の引き下げ論など、憂慮すべき主張が声高に叫ばれています。こうした中で、少年法関係の論文集を公刊して研究生生活の「終活」を目論んでいた身としても、「老骨に鞭打って」頑張り続けなければならないと決意している昨今です。



筆者の著書
『刑法の論点と解釈』『カナダの少年司法』

刑法と少年法との「2足の草鞋」

大学院に進学して研究生生活を始めてから、早いもので、すでに40年が経ってしまい、自分自身でも驚いているところです。当初は、傷害致死罪に代表される結果的加重犯の諸論点をめぐる解釈論を中心に研究を進め、その集大成である著書の『結果的加重犯論』(成文堂、1990年)で、法学博士の学位を取得しました。その後も、刑法の解釈論の研究を続行して、論文集『刑法の論点と解釈』(成文堂、2014年)の公刊に漕ぎつけ、刑法解釈論に「一応の目途」をつけたところです。

その一方で、大学院時代から、子どもの問題や少年法のあり方に関心を持って、刑法解釈論と並行して研究を続けてきました。実体法の観点から少年法を研究する者が少ない中で、手続法との関連問題に苦労しながらの研究でした。特にカナダでの在外研究の成果で

私のクラス



林 順子 (はやし よりこ)
経済学部 経済学科 教授

専門分野は「日本経済史」。
研究テーマは、「近世以降の尾張の経済発展の要因」。
主な担当科目は、「日本経済史入門」「日本経済史」「日本史」「特別テーマ講義(歴史と思想)A」。

足下の歴史から現代産業を紐解く

私の専門は、日本経済史、特に江戸時代の尾張の商工業や流通および政策です。「ものづくり」の地として知られる愛知県の成立を調べています。手つかずの古文書を解読しながら事実を明らかにするのが研究の本来の醍醐味ではありますが、学生には発刊されている資料集からの読解を勧めています。

経済学部では、1年次からゼミが設けられており、各先生の専門に関わるような内容について学生たちが自分で調べたことをゼミで報告し、討論しています。私のゼミでは、愛知県の企業や産業の歴史を中心に、調査・報告してもらっています。タイムキーパーや司会も、学生がおこないます。2015年度は、4人一組で、名鉄百貨店や松坂屋、中部電力、トヨタ自動車、ミツカン、カゴメなどの歴史が報告されました。

3年次生は、自分が研究したい分野の

ゼミを選んで、4年次において卒論を執筆するための基礎知識や手段を学びます。私のゼミでは、学生が日本経済史のテキストの報告をした後に聞き手の学生に小テストを実施し、採点もしました。

講義科目では、2015年度に特別テーマ講義として「日本酒からみる経済史」を始めました。和食文化に注目が集まる昨今ですが、日本酒は和食に欠かせない存在であるとともに、経済史とも密接に関わっています。講義は、酒造の工程とともに飲酒への注意も含めた「酒」の基礎知識のレクチャーから始めました。その後、酒造の技術や道具の開発、輸送業の発展、その時々政権の政策や、貨幣経済の浸透・市場の増加・階級分化の進展を背景とする酒造の大規模化など、古代から現代までの酒造に関わる様々な分野の歴史をたどりました。受講生360人という大講義でしたが、学生にはもちろん、私にとっても新鮮な講義となりました。



キャリア支援室プログラム紹介

名古屋銀行との人材育成に関わる教育プログラムについて

2015年度より、名古屋銀行と本学が「人材育成に関わる連携協定」を締結し、右記のPBL(問題解決型学習)プログラムを実施しています。

- ◎就業体験型
長期有償型インターンシップ。実際に営業店にてロビーマネージャー(お客様案内係)を経験。
- ◎企画体験型
新規サービスモニター。1年間にわたりサービスに関するマーケティング・課題解決を実施。
- ◎営業体験型
銀行の営業およびコミュニケーションについて講義およびフィールドワークを実施。

就業体験型プログラム(インターンシップ)参加者の声

日置 雅弓 法学部法律学科3年

本プログラムに参加しようと思った理由の1つに、「銀行のロビーマネージャー(ほぼ老若男女さまざまなお客様と一度に触れ合う機会はなかなかない)」という説明会での行員の方の言葉がありました。実際に参加するとまさにその通りで、お子様から高齢者、外国の方などたくさんの方が、皆様それぞれの状況の中で個別の目的でご来店されます。開始したばかりの頃は何も分からず、お客様をお待たせしたり行員の方に頼りきりでしたが、一人の行員として対応を重ねていくうちに、段々と来店目的や、どのような対応を望まれているのかなどを少しずつ先読みできるようになり、受身の姿勢から自分から先に行動できるようになりました。そこで理解できたことは、マニュアルは決して万能ではなく、状況に応じて、そのお客様の立場に合わせた対応を考えて行わなければならないということでした。また、この約2ヶ月の体験を通し、最も大きな成果は視野が広がったことです。店舗内全てに気を配ることやさまざまな立場のお客様と接することで、私が思っていた以上に社会には色々な立場や状況の方がいることを身をもって経験し、一度に多くのことに気を配り行動することの難しさを改めて感じました。視野を広く持ち、さまざまな立場で物事を考えられることが私の理想像ですが、インターンシップで行員としてお客様に接し、大学生活では味わえない緊張感と責任をもって業務に望んだことで、その具体的なイメージを掴むことができました。今後の生活でもこの経験を生かし、さまざまな立場があることを理解することで、さらに視野を広げられるよう鍛えていきたいです。



秋学期からも多彩なプログラムを実施します!

低年次から万全の体制でキャリア形成支援をサポートしています。学生の皆さんは是非参加してください。

キャリアサポートプログラム(全学年対象)

10月~	希望進路別ガイダンス「エアライン」「マスコミ(新聞・放送)」「マスコミ(出版・広告)」	業界の動向や採用選考の特徴、必要な準備などを学びます。
10月~	テーマ別ワークショップ「海外と関わる仕事」「営業職の仕事」など	ワークを通じて、テーマ毎に必要な能力・資質とは何かを考えます。
12月~	業界・職種研究会 [2014年度実績 文系 57社/理系 12社]	各業界を代表する企業から、主に卒業生を講師としてお招きします。

就職支援プログラム(2017年3月卒業予定者対象)

9月	第2回就職ガイダンス【文理別】	これまでの振り返り、秋学期のスケジュールの確認など
9月~1月	就職講座【文理別】筆記試験対策、自己理解、業界研究など	テーマ毎に就職活動に役立つ講座を実施します。
10月	筆記試験対策	SPI模試、SPIフォローアップ講座
11月~1月	グループワーク、グループディスカッション対策	グループワーク体験講座、グループディスカッション対策講座など
1月	第3回就職ガイダンス【文理別】	企業の人事担当者による電話応対や模擬面接など
2月	エントリーシート・面接対策	ES・面接準備ワークショップ
3月	学内会社説明会 [2014年度実績 文系 365社/理系 90社]	学内にて南山大生を対象とした会社説明会を開催。優良企業が多数参加します。

※その他、Uターンガイダンスや外国人留学生ガイダンス、障がいのある学生のためのガイダンスを実施します。

2015.6.13-2015.6.14

外国人留学生別科創立40周年記念事業 「日本語と留学生でつなぐ過去、現在、未来」

6月13日に外国人留学生別科(CJS)創立40周年記念式典、第4回国際シンポジウム『私の人生における日本留学』—世界で活躍するCJS卒業生」、ならびにグラント同窓会を、6月14日に日本語・日本語教育研究大会を名古屋キャンパスで開催しました。

記念式典では、来賓祝辞・挨拶の後にCJS生がスピーチを行い、各国から集まったCJS卒業生と共に40周年を祝いました。式典終了後の国際シンポジウムでは、CJS卒業生の元豪州日本研究会会長、西オーストラリア大学副学長のケント・アンダーソン氏、インドネシア日本語教育学会会長、パジャジャラン大学教授のアグス・スヘルマン・スルヤディムリア氏、中部大学教授のジョン・ギヤスライト氏、筑波大学准教授のレスリー タック 川崎氏の4名がプレゼンテーションを行った後、「今後の日本語教育・国際教育はどうあるべきか」について討論を行いました。

日本語・日本語教育研究大会では、教室で研究会を行った他、プリンストン大学名誉教授の牧野成一氏に「文学は日本語・日本文化教育にどのように役に立つか。」というテーマで基調講演していただきました。



2015.7.19

オープンキャンパス

7月19日に2015年度オープンキャンパスを名古屋キャンパスで実施しました。2017年度に総合政策学部が名古屋キャンパスへ移転することに伴い、今年度より総合政策学部の説明も含め、全学部・全学科の企画を名古屋キャンパスで行い、瀬戸キャンパスは名古屋キャンパスからのキャンパスツアーに組み込み、見学していただきました。

当日は全学部の学科説明会や模擬授業をはじめ、学生によるキャンパスツアー、相談コーナー、クラブ活動紹介など多くの企画を実施。オープンキャンパス当日に発表した国際教養学部(仮称・設置構想中)についての説明、相談も行いました。オープンキャンパス当日は酷暑でしたが、過去最高の7,649名の方にご来場いただきました。



2015.8.1-2015.8.9

連続講座

「大学で、未来の自分を探してみよう!」

南山大学の知的財産を地域に還元することを目的として、小学校4~6年生を対象とした6講座を開講し

ました。全講座いずれも大学の教室や施設を利用し、大学の教員や学生と一緒に学ぶ体験型の講座です。

「パパ、ママのために、便利な商品を開発しよう!」の講座では、参加した小学生が保護者に欲しい商品聞き取り調査し、グループに分かれて商品を立案、プレゼンテーションし、商品開発の流れを体験しました。



2015.8.3-2015.8.7

夏休み水泳教室

南山大学室内プールでの夏の恒例行事「夏休み水泳教室」を、8月3日から8月7日に開催しました。

この教室は事前に申し込みされた小・中学生を対象に、本学水泳部の学生が5日間にわたり泳ぎ方を教えるもので、今年は120名の定員が満員になるほど人気の教室です。初日には開会式を行い、受講者全員で注意事項を読み上げた後、プールでの練習が始まりました。今年もたくさんの受講者の方々が、楽しみながら泳ぎの上達を目指しました。



活躍する南山大生

アメリカ合衆国独立記念 祝賀レセプションで司会

2015年7月2日に行われた在名古屋米領事館主催のアメリカ合衆国独立記念日祝賀レセプションで、外国語学部英米学科2年の椋山遥香さんが司会を務めました。名古屋の政財界の要人が集まる会で日英二カ国語を使いながら大役を果たしました。

椋山さんは、「レセプションの中には、愛知県とアメリカの友好関係をこれからも繋げていくというコンセプトで企業や空港などの紹介もあり、改めて貿易や産業で密接に繋がっていると感じました。このような素晴らしいレセプションで司会をやらせていただき、緊張はしましたがとてもいい経験がすることができ、貴重な機会をいただいたことに感謝しています。サポートくださった領事館の方々、ご指導いただいた山岸先生にも感謝の気持ちでいっぱいです。」と語ってくれました。



スイス・ドイツで学生が公演

2015年8月から9月にかけて、外国語学部ドイツ学科の学生13名が、スイスおよびドイツで「学生ドイツ語劇」を3公演しました。

これは「ドイツ語演劇研究」という授業で毎年秋に南山大学で公演しているドイツ語劇をスイスの教員の方が見てくださり、オファーをいただいたのがきっかけで、2年生を中心とした学生有志による公演が実現しました。

公演では、14世紀スイス独立にまつわる伝説の英雄ヴィルヘルム・テルをモデルにF.シラーが書き上げた戯曲「ヴィルヘルム・テル」の中でも最も有名な3幕3場の「リンゴの場面」を、オリジナルに近づけようと「古典的ドイツ語発音」で公演しました。この作品はスイスでは誰でも知っている作品ですが、公演終了後にはいずれの会場でも温かい拍手が送られ、盛況のうちに幕を閉じました。



南山のDNA

ハワイのグラミー賞を南山に



對馬 健太郎
外国語学部英米学科
2006年度卒業

現在、ハワイアンミュージシャンとして演奏しています。日本各地そしてハワイなど、各地で音楽をしながら音楽と生きることの大切さ、大変さ、幸せを日々感じています。

昔から音楽は好きでしたが、在学中は音楽家になるとは思っていませんでした。人生には、自分を否定する言葉や、生活、常識、安定、などの自分の魂の叫びを阻む概念が多くあります。その言葉を全て振り払った時、本当の自分の道が見えてくると思います。僕はそれが音楽でした。

学生時代にはとにかく英語の能力を更にあげる事を中心に、好きな音楽を思い切りやりました。英語はどこへ行っても何をやるにも優遇される道具ですし、海外にも簡単にに行けますし、ハワイのダンサーや音楽家と何でも話せる事は本当に大きな武器の一つになっています。

先日、デビューアルバム「KEPANI」がハワイのグラミー賞といわれるナホクハノアワードを受賞させていただきました。音楽はもちろん、英語のスピーチも高く評価して頂き、ハワイのメディアや現地の

Profile
南山大学卒業後、プロミュージシャンとして活動。デビューアルバムが、ハワイのグラミー賞 2015 Na Hoku Hanohano Award 最優秀インターナショナルアルバム賞を受賞。
www.kentarotsushima.com

方々から多くの反応を頂きました。世界で勝負をかけるとき、英語は必ずと言っていいほど必要なものです。

学生時代の恩師との出会いは非常に意味が大きく、恩師からは音楽を始め、自分を信じる事、音楽に没頭する事などのメンタル面や、音楽の現場を学ばせて頂きました。そして、自分が音楽の世界に入っていくとき、誰よりも自分を肯定し背中を強く押してくれました。

受賞後、たくさんのメディアや仕事の依頼が増え、身の引き締まる思いです。南山大学をはじめ自分を育ててくれた土台に感謝しつつ、常に挑戦し続け、日本のハワイアンミュージックに革命をもたらします。



2015 Na Hoku Hanohano Award受賞式にて

2015.10.10

野外宗教劇「受難」

10月10日(土)18:00~[小雨決行。順延の場合は10月17日(土)に公演]、名古屋キャンパスのパッヘスクエアで第49回野外宗教劇「受難」を公演します。

野外宗教劇「受難」はカトリック大学である本学を代表する伝統行事であり、イエス・キリストのエルサレム入城からゴルゴダの丘における十字架上の死を経た復活までを、大学公認の課外活動団体「野外宗教劇」部員の学生が演じる劇です。出演はもちろんのこと、演出、脚本、衣装、メイク、情報宣伝など「受難」に関わる全てのことを学生たち自身が行います。



2015.10.31-2015.11.3

大学祭

名古屋キャンパスでは10月31日から11月3日に

南山祭を、瀬戸キャンパスでは11月1日に聖南祭を開催します。

今年の南山祭のテーマは「ブラネタリウム」。このテーマには、大学祭という特別な空間のなかで日常では発見し得ないそれぞれの個性を輝かせ、それらが集まることにより織り成す一体感を、学生や来場者の方々に感じていただきたいという願いが込められています。聖南祭のテーマは「Re;creation」。Recreationは楽しいこと、Re;は新しくという意味、creationは創造という意味があります。今年新しく発足した聖南祭委員会、そして学生が主体となり、来場者も学生も楽しんでもらえるような聖南祭をつくりたいという思いが込められています。

2015.11.7

受験生のための入試相談会・保護者のためのキャンパス見学会

11月7日(土)11:00~16:00に、名古屋キャンパスで受験生のための入試相談会と保護者のためのキャンパス見学会を同時開催します。これは、一般入試、全学統一入試、センター利用入試の受験予定者と高校生の保護者向けのイベントで、当日は受験生

向けと保護者向けにそれぞれ説明会などを実施する他、個別相談コーナーや在学生によるキャンパスツアーも実施予定です。

詳細は大学公式Webページ「受験生の皆様」をご覧ください。



<http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/index.html>

2015.11.15

南山大学・豊田工業大学連携講演会

11月15日(日)に、南山大学と大学間連携協定を締結している豊田工業大学との連携講演会を、南山大学名古屋キャンパスで開催します。

今回のテーマは「『聴くこと、話すこと』一日頃の会話からカウンセリング、手話まで」とし、本学人文学部坂中正義教授が「聴くこと-カウンセリングの立場から」、豊田工業大学工学部原大介教授が「手話とはどのような言葉か」をそれぞれ講演します。

詳細は大学公式Webページ「南山大学・豊田工業大学 連携ニュース一覧」をご覧ください。



http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koho/toyokou_list.html

Information

後援会定例評議員会

2015年6月27日(土)メルパルク名古屋で、南山大学後援会定例評議員会が開催されました。南山大学後援会は在学生の父母等によって組織されており、当日は理事・評議員に就任いただいている役員の皆様から115名の方にご出席いただきました。

議事においては、(1)2014年度事業報告および決算報告について(2)役員を選任について(3)2015年度事業計画および予算について決議され、2015年度の事業内容として、9月26日(土)名古屋・瀬戸両キャンパスで第43回「父母の集い」を開催することが決定されました。



後援会Webページ

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kouenkai/index.html>



後援会貸借対照表

2015年3月31日現在(単位:円)

借方		貸方	
預金	156,941,743	課外活動援助基金	111,724,604
		事故対策基金	41,184,063
		次期繰越金	4,033,076
合計	156,941,743	合計	156,941,743

後援会収支計算書および予算書

(単位:円)

科目	2014年度決算	2015年度予算
収入の部		
前期繰越金	3,273,975	4,033,076
入会金	2,447,000	2,493,000
会費	181,490,000	184,020,000
合計	187,210,975	190,546,076
支出の部		
教育・研究活動等支援援助金	170,000,000	174,000,000
留学生支援活動援助費	(65,000,000)	(68,000,000)
教育研究図書援助費	(57,000,000)	(55,000,000)
広報活動援助費	(10,000,000)	(10,000,000)
課外活動援助費	(30,000,000)	(32,000,000)
就職指導活動費	(8,000,000)	(9,000,000)
後援会活動費	9,177,899	10,110,000
父母の集い	(1,664,061)	(1,860,000)
就職活動援助費	(1,200,000)	(1,200,000)
広報費	(5,174,937)	(5,700,000)
事務費	(1,138,901)	(1,350,000)
課外活動援助基金積立	4,000,000	4,000,000
予備費	0	400,000
次期繰越金	4,033,076	2,036,076
合計	187,210,975	190,546,076

《基金内訳》

(単位:円)

課外活動援助基金		事故対策基金	
前期繰越金	107,724,604	前期繰越金	41,184,063
当年度積立金	4,000,000	当年度積立金	0
合計	111,724,604	合計	41,184,063

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

森茂会 代表者 稲垣 孝一 様
南山大学人類学科38期同窓会 代表 古田 麻美 様

株式会社 共和熱処理 冨田 正徳 様
株式会社 コシヤ 代表取締役 吉田 千鶴子 様

藤田 房子 様 中尾晴一郎 様 佐々木孝敏 様 山口 光大 様 梅村 朋恵 様 杉原 桂太 様
安井真理子 様 杉浦 順二 様 渡部 幸一 様 安原 文美 様 近藤 倉弘 様 山岸 敬和 様
伊藤 拓治 様 中根 勝美 様 上坂 瑛子 様 味岡源太郎 様 杉原 史彦 様 三谷 靖司 様
血井 健裕 様 長江 弘 様 中村 洋子 様 古田 晃 様 坂下 淳一 様 丸山 雅夫 様
伊藤 芳明 様 福地 昌子 様 村上真由美 様 旭 勝春 様 関戸 邦雄 様 児玉 和典 様
小原美由紀 様 青木 喬 様 岩佐 西 様 光松 清一 様 佐藤 枝里 様 児玉あずさ 様
後藤 悠介 様 宮川憲太郎 様 小川 武男 様 加藤 満明 様 加藤 敦夫 様 加藤 雅毅 様
國島 良造 様 柳澤 宏 様 平子由美子 様 横井 健二 様 中 裕史 様 匿名ご希望者 4名様
椋山 和子 様 田中 聡恵 様 武田 正博 様 日美江利子 様 則竹 輝一 様
青木 洋一 様 金井 信二 様 加藤 美和 様 加納 圭子 様 笹山 達成 様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。 南山大学同窓会 様 三機工業株式会社 中部支社 様

友の会評議員会・総会

2015年7月15日(水)ホテル名古屋ガーデンパレスで、南山大学友の会評議員会・総会が開催されました。友の会は南山大学をご支援いただいている一般および法人会員によって組織されており、本年7月15日現在の会員数は一般会員285名、法人会員137法人となっています。

総会では、(1)2014年度事業報告および決算報告について(2)役員改選(案)について(3)2015年度事業計画(案)および予算(案)について(4)会則の改正(案)について審議され、それぞれ承認されました。議事終了後、今年度の友の会給付奨学金を受給する外国人留学生および日本人の海外留学(派遣)奨学生も参加させていただき、安井義博会長より奨学生採用通知書が授与されました。また、その後行われた懇親会の席において、留学生と友の会会員の皆様との間で積極的な交流が図られ、友の会会員の皆様より多くの温かい励ましのお言葉を頂戴いたしました。



南山大学友の会会員募集中

南山大学の教育・研究活動にご支援いただける一般および法人会員を募集しております。

[年会費]一般会員 1口 10,000円
法人会員 1口 30,000円
※何口でもお申込みいただけます。



友の会Webページ

<http://www.nanzan-u.ac.jp/tomonokai/index.html>

新任用教員紹介

2015年7月1日付

●外国人留学生別科

語学講師(別科L.I.) 山田 真理 (専攻分野:日本語教育)